

A L L ローンマスター ヘルプガイド

ALLローンマスター

さまざまな クレジット・ローン計算と
実質年率とアドオン変換計算の
ローン万能ソフト



ALLローンマスター

このソフトは、ローンや金利のあらゆる計算と早見表及び、[実質年率](#)と[アドオン](#)変換が正確にできるローン万能便利ソフトです。

これは、大きく次の2通りの機能で成り立っています。

1．ローン返済計算

(融資・クレジット・リボルビング・住宅ローン等)

2．実質年率とアドオン変換

(金利計算の基本の実質年率とアドオンでさまざまな角度から割出・変換します)

日常生活でのさまざまなローンやクレジットの返済予定計算は簡単にできるものから非常に複雑なものまで多岐にわたります。

また、融資等での実質年率とクレジットで一般的なアドオン方式といろいろの計算方式があります。

当ソフトでは、アドオン率から実質年率を求める方法に正確性を高める為にニュートン法を用いております。

ここでは、それらに対応して分かり易く操作できて詳細な計算結果を算出するものです。

このソフトは、多様な種類のローン・クレジット計算に対応している点と、特に実質年率とアドオン率との相互変換において特長機能を持っているものです。

多くの場面で元利展開表や支払明細等の印刷機能及びファイル保存・読込も可能です。

個人の資金計画、ローン整理、あるいは金融やクレジット販売等、ビジネスでの活用ができる万能ローン便利ソフトです。

目次

● インストール

■ インストール	6
■ インストールでエラーが出る処理方法	7
■ OSについて	8

● 基本操作要領

■ はじめて操作	9
■ 基本操作要領 (全機能共通)	10
■ 概算連続印刷	11
■ 元利展開表の表示と印刷	12
■ 月々支払明細表の表示と印刷	13
■ ファイルの保存と読込	14

● 各機能と操作の説明

■ 融資返済計算

○ 通常返済計算 (月利計算)	15
○ リクエスト試算 / 回数指定 (月利計算)	16
○ リクエスト試算 / 回数割出 (月利計算)	17
○ 通常返済計算 (詳細計算)	18
○ 金利変動型返済計算 & 繰上返済計算	23
○ 借入可能額 (元利均等)割出し	25
○ 毎回分の簡単計算 (月利計算)	27
○ 返済額指定計算 (月利計算)	28
○ 日割り金利計算	29
○ 日割り元利均等払計算 (月利計算)	30
○ 年賦・半年賦計算 (月利計算)	36

■ カードリボルビング計算

○ 残高スライド方式(月利計算)	38
------------------	----

目次

■ クレジット分割計算

- 実質年率クレジット計算 ===== 42
- アドオン計算 / クレジット試算 ===== 43
- クレジット返済早見表 ===== 44
- 借入可能金額(アドオン)割出し ===== 46

■ 住宅ローン計算

- 住宅ローン目安計算 ===== 48
- 住宅ローン詳細計算 ===== 49
- 住宅ローン借換 (残債) ===== 50
- 住宅ローン借換 (当初の借入) ===== 51

■ 手数料戻し計算

- 78分法手数料戻し計算 ===== 52

■ 実質年率とアドオン変換

- アドオン率から実質年率への変換 ===== 53
- 金利額からの実質年率計算 ===== 54
- 支払方法からの実質年率計算 ===== 55
- 実質年率からのアドオン率換算 ===== 57
- 実質年率からアドオン率換算一覧表 6～120回払 ===== 58

■ 早見表

- ローン返済目安額指数早見表 ===== 59
- クレジット返済早見表 ===== 44
- 実質年率 / アドオン率 変換一覧表 ===== 60

■ 付属ソフト

- MDタイマーSXとMD電卓 ===== 61

■ サポートとユーザー登録と注意

- サポート ===== 62
- ユーザー登録 ===== 63
- 注意 ===== 64

インストールは次の2通りのいずれかの方法で行います。

● フルパック版でのインストール

ランタイム付き版です。

最初のインストールでは、この版でインストールします。

ランタイム付きですのでサイズは大きくなっています。

インストール方法

エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1. ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2. 解凍展開されたファイルの内、「setup (アプリケーション)」のファイルをダブルクリックするとインストールが始まります。画面の指示通り進めます。

※デフォルトでは下記のフォルダにインストールされます。

C:\ALLロ-マスタ-

再度フルパック版でインストールする場合

最初ではなく、2回目以降も同じくこのフルパック版でインストールする場合は、前のバージョン分をコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で一度このソフト全部を削除してから改めて、新バージョンでインストールして下さい。

そのままインストールしてもソフト本体が新バージョンに書き変わらない場合があります。

● ランタイム無し版でのインストール

ランタイム無しで、ソフト本体とヘルプファイルと付属の電卓ソフト本体のみのパックです。本体だけですのでパックのサイズは小さくて済みます。

2回目以降は、このランタイム無し版で、ソフトのみの差し替えでインストールします。

インストール方法

エクスプローラなどでインストール作業を行います。

1. ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに置いて解凍します。
2. 解凍展開されたファイルの全てを前のバージョンのソフトと差し替え（上書き）します。
ソフト所在のフォルダは通常下記フォルダになります。

C:\ALLロ-マスタ-\

インストールでエラーが出る場合の処置方法

エラー症状 1

「フルパック版」をセットアップするときに「Path or File not Found」とエラー表示されてインストールできない。

エラー原因

Windows XP 等で、管理者ユーザーIDに漢字などの全角文字が含まれている場合にエラーになることがあります。

「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で確認して下さい。

対処法

「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」で、ユーザーIDをもう一つ、半角の英数字で作ります。

一度パソコンを終了して、再度立ち上げ時に新しく作った半角英数字のユーザーIDでログインします。

他の常駐などの裏で動いているアプリケーションは全て終了して、その状態でセットアップを開始します。

その後は新しいユーザーIDは削除をしても良いでしょう。

エラー症状 2

前バージョンから新バージョンへインストール差し替えができない

既に同じソフトの前バージョンなどがインストールされていて、新しいバージョンをそのままインストールしても、上書されない状態で、新しいバージョンがインストールされない場合があります。

対処法

今入っている前バージョンのソフトを一度

「コントロールパネル」－「アプリケーションの追加と削除」で、削除して下さい。

その後に改めてフルパック版をインストールします。

ソフトは本体だけでは動きません。

このソフトを動かすソフトが必要です。それがランタイムファイルです。

このソフトは、VisualBasic 6.0 のランタイムファイルが必要です。

はじめて操作

基本的に初心者でも簡単に操作できるように配慮しています。

入力は基本的に数字キーだけで殆ど操作できます。

入力してエンターキーを押す形です。

まずはぶっつけ本番でいきなりさわってみて下さい。

一度入力などをして答えを出すと、後は何もマニュアル等なくても簡単に使えます。

使い方

車・家・ローン・カード・SHOP・金利等のそれぞれのアイコン→選択ボタンで「今、自分は何をしたいのか」選び、そのボタンを押すと、希望のソフトヘジャンプします。

あるいは、各項目ボタンで選択します。



安心してさわって下さい

入力では、殆どの項目で常識的にあり得ない数字などが入力された場合、チェックがかかりますので安心して入力して下さい。

メチャクチャな入力をする、メチャクチャな答えが出るだけで、ソフトが壊れるわけではありません。

いろいろお試し下さい。

● 操作要領（全機能で共通した操作です。）

入力確定

数字を入力して、エンターキーを押すと、確定して次の項目に進みます。
タブキーでは移動だけで、確定しませんので注意。

項目移動

矢印キーもしくはマウスクリックでは項目移動のみします。

戻り訂正

移動して、そのまま入力し直します。または、「.」エンターでも前の項目に戻ります。

年月入力

西暦の6桁、もしくは元号(HやRなどの仁シヰル)の5桁で入力します。
例：2019年5月～ 201905 or R0105

年月日入力

西暦の8桁、もしくは元号(HやRなどの仁シヰル)の7桁で入力します。
例：2019年5月20日～20190520 or R010520

チェック

全体的に、通常あり得ない数字等を入力した場合チェックがかかります。

概算連続印刷

「計算」ボタンを押して詳細計算をするつど、それで計算した概算内容を1枚の紙に最高5通りまで印刷できます。

「印刷貼付指示」ボタンで、計算のつど印刷指示をして、
「印刷出力」ボタンで、それまで指示した分が
1枚の紙に最高5通りまで印刷されて出力されます。

支払終了までの

「支払年月」
「毎月分の金利」
「毎月分の元金充当分」
「毎月分の元金残高」
「ボーナス分の金利」
「ボーナス分の元金充当分」
「ボーナス分の元金残高」
「毎回支払額（毎月分＋ボーナス分）」
「元金残高毎月分＋ボーナス分）」

以上を表示します。

この元利展開表はそのまま融資償還表として利用できます。

「印刷」 ボタンで印刷します。

紙サイズは A 4 縦

※コピー

元利展開表の内容をクリップボードにコピーできます。

方法

1. 元利展開表のコピーしたい部分をドラッグして
範囲を指定します。または、表の「回数」の
項目欄をクリックすると、元利展開表の内容全部が範囲指定されます。
2. 「コピー」 ボタンを押してクリップボードへコピーします。
または、マウスの右ボタンでコピーします。
3. 表計算ソフトやワープロソフトのワークシートに貼り付けします。

支払終了までの

「支払年月」

「毎月分の支払額」

以上を表示します。

このまま支払明細表（予定表）として利用できます。

「印刷」ボタンで印刷します。

紙サイズは A 4 縦

保存

それまで試算した内容をディスクに保存します。

上部のメニューの「ファイル／名前を付けて保存」

もしくはアイコンの「名前を付けて保存」を選択して、フォルダを指定します。

ファイル名を付けて保存します。

読込

上部のメニューの「ファイル／ファイルを開く」

もしくはアイコンの「ファイルを開く」を選択して、フォルダを指定します。

ファイル名を指定して「OK」ボタンで読込します。

読み込まれた内容が各項目として表示されます。

そのまま、試算ができます。

貸付金額や支払回数等が決まっていたら、この機能で計算します。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 各項目を入力して、「計算」ボタンで詳細計算されます。
- 変更したい項目のみを入力して、「計算」ボタンで繰り返し詳細計算ができます。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。（拡張子は *.LM1 *.LM2）

[元利均等払い](#)と[元金均等払い](#)の2種類があります。

入力項目

- 実質年率 : 110%以上の数字は入力不可
- 毎月払元金 : 最高5億円まで
- ボーナス払分元金 : 最高5億円まで
- 支払回数 : 最高1200回まで
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- ボーナス回数 : 支払回数÷6+1まで
- ボーナス初回年月 : 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力（年月ではない）

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

リクエスト試算／回数指定（融資/月利計算）

融資貸付で貸付元金総額や支払回数などが決まっている場合に、その回数の範囲内で
月々支払額がいくらなら→ボーナス払分がいくら
ボーナス払分がいくらなら→月々支払額はいくら
というように、それぞれのリクエストに応じて目安額を算出します。
その目安額でよければ、そのまま正式計算へ進み詳細計算をします。
計算は毎月分貸付元金とボーナス分貸付元金も割り出します。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 毎月支払希望額を入力するとボーナス目安が出ます。
- ボーナス加算希望額を入力すると毎月分目安が出ます。
- 「確定」ボタンで概算が出て、そのまま「正式計算」ボタンで詳細計算をして、元利展開計算まで算出します。
- ボーナス回数は自動カウントします。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。

[元利均等払い](#)と[元金均等払い](#)の2種類があります。

入力項目

- | | |
|----------|-----------------|
| 金利年率 | ：110%以上の数字は入力不可 |
| 融資金額（総額） | ：最高1億円まで |
| 支払回数 | ：最高1200回まで |
| 初回支払年月 | ：1950年～2099年 |
| ボーナス初回年月 | ：初回年月より前は不可 |
| ボーナス2回目月 | ：月だけ入力（年月ではない） |

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- リセットで新規入力

リクエスト試算／回数割り出し（融資/月利計算）

融資貸付で、貸付元金総額はわかっていて、毎月の支払希望額とボーナス希望額の通りにすると何回払いになるのか割り出します。

回数は6の倍数で試算して、希望に一番近いところで試算結果を出します。

その回数でよければ、そのまま正式計算へ進み詳細計算をします。

計算は毎月分貸付元金とボーナス分貸付元金も割り出します。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 毎月支払希望額とボーナス加算希望額を入力して
「計算」ボタンを押すと、希望に一番近いところでの支払回数を表示します。
- そのまま「正式計算」ボタンで詳細計算をして、元利展開計算まで算出します。
- ボーナス回数は自動カウントします。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。

[元利均等払い](#)と[元金均等払い](#)の2種類があります。

入力項目

- 金利年率 : 110%以上の数字は入力不可
- 融資金額（総額） : 最高1億円まで
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- ボーナス初回年月 : 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力（年月ではない）

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- リセットで新規入力

通常返済計算（詳細計算）

ここでの計算表示はシミュレーションだけでなく、ユーザーの計算方針と一致すれば実用の融資計算として対応できるものです。

貸付金額や支払回数等が決まっていたら、この機能で計算します。

特長

1. 融資実行日から返済日までの初回日割り計算も詳細に計算されます。
2. ボーナス払は6ヶ月間に限らず、夏冬の自由なボーナス月での組合せで計算できます。
3. 都度の試算が一枚の紙に数通り印刷できます。
4. ボーナスオンリー(年賦・半年賦)での計算もできます。
5. 詳細な元利展開表が表示され、そのまま印刷されたものは償還表としても活用できます。
6. ファイル保存できますので、後で呼出して再加工もできます。

[元利均等払い](#)と[元金均等払い](#)の2種類があります。

計算方法の詳細は下記を参照してください。

入力項目

- 実質年率 : 110%以上の数字は入力不可
- 毎月払元金 : 最高5億円まで
- ボーナス払分元金 : 最高5億円まで
- 支払回数 : 最高1200回まで
- 融資実行年月日 : 対象年 : 1950年～2099年
- 初回支払年月日 : 8ケタ年月日、例えば、20260615と入力
 ここでの日が以降の支払日とします。
 対象年 : 1950年～2099年
- ボーナス回数 : 支払回数÷6 + 1まで
- ボーナス初回年月 : 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力(年月ではない)

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

1. 各項目へ入力しエンターキーを押すと、確定して次の項目へ進みます。
2. 各項目を入力終了したら、「計算」ボタンで計算され、結果表示されます。

3. 「印刷貼付指示」ボタンで今試算した内容を印刷用意させます。
(ここではまだ印刷はされません)
次の別のパターンの試算内容で再び、「印刷貼付指示」ボタンで印刷指示します。
ここで「印刷出力指示」ボタンで初めて、今まで印刷指示した試算内容が一枚の紙に印刷されます。
4. 「元利展開表」ボタンで、展開表に画面が変わります。
ここでの印刷は元利展開一覧表が印刷されますので、これがそのまま償還表としても活用できます。
「コピー」ボタンは一覧表をクリップボードコピーできますので、そのまま他のE X C E L等の表計算ソフトなどに貼付することができます。
5. ファイルを保存できます。拡張子は「*. DX2 *. DX3」です。

ボーナスオンリー払の操作要領

半年賦

1. 支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間（月数）です。
入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので、多めの回数を入力します。
わからなければ300回などの回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。
例：通常ボーナス回数が10回であれば、5年分の月数60回や余裕をもって100回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数（月数）を割り出します。
2. 初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。
3. ボーナス回数を入力します。
4. ボーナス初回年月を入力します。
5. ボーナス2回目の月だけを入力します。
このボーナス2回目の月を初回の月と同じ月を入力すると、それは年賦の扱いになります。

年賦

半年賦と同様ですが、ボーナス2回目の月を初回の月と同じに入力すると、年賦の計算となります。ボーナス回数などに注意して入力します。

■■ 計算方法の詳細

● 元利均等払 詳細計算

元利均等払とは、毎回の返済額が一定額で、その元利内訳が変化していく返済方法。
基本的には、元利均等払の概算計算と毎回の返済額は同じですが、

初回の金利は、その融資実行日によって異なってくる金利を
日割り金利計算も含んで計算します。

[目次へ](#)

○計算例

初回返済額の実例は下記の通りです。

例： 融資額：2,000,000円

内訳：毎月分 : 1,500,000円

ボーナス分 : 500,000円

実質年率 : 3.0%

返済回数 : 60回払

融資実行日：2003年05月20日

初回支払日：2003年06月27日

初回ボーナス月：2003年07月

2回目ボーナス月：12月

ボーナス回数：10回

以上の例では、毎回の返済額は

毎月返済額 : 26,953円

ボーナス加算額：53,616円 となります。

ここでの毎月返済額26,953円は、月利計算での金額となります。

つまり、毎月の支払日は27日であれば、

5/28----6/27 6/28----7/27 7/28----8/27---- というように
2003年05月28日からの一ヶ月毎の月利計算で算出された
毎月返済額26,953円ということになります。

この例の場合は5/20融資実行ですので、5/20--5/27までの
8日分の日割り金利が別に必要となってきます。

$1,500,000 \times 3\% \div 365 \times 8 = 986$ 円・・・これを初回に加算しますと
 $986 + 26,953 = 27,939$ 円～これが初回の返済額となります。

ボーナス払においても同様の考え方となります。

5/28 -----7/27 12/28-----7/27・・・

7/28-----12/27

| -- 2ヶ月間-- | -- 5ヶ月間-- | -- 7ヶ月間-- | -.....

以上の関係で計算されたものが、ボーナス払額53,616円となりますので、
 $500,000 \times 3\% \div 365 \times 8 = 328$ 円・・・これをボーナス初回に加算しますと
 $328 + 53,616 = 53,944$ 円～これがボーナス初回の返済額となります。

● 元金均等払 詳細計算

[目次へ](#)

元金均等払とは、毎回の返済額の内、元金部分が一定額で、金利部分は前月元金残高に対しての金利として、毎回変化していく為、

毎回の返済額は変化していく返済方法。

基本的には、元金均等払の概算計算と毎回の返済額は同じで、

毎回の金利は月利で計算していきますが、

初回の金利については、その融資実行日から初回支払日までの日割り計算により計算しています。

シミュレーションだけではなく、実用の融資計算に対応できるものです。

○計算例

初回返済額の実例は下記の通りです。

例： 融資額：2,000,000円

内訳： 毎月分：1,500,000円

： ボーナス分：500,000円

実質年率：3.0%

返済回数：60回払

融資実行日：2003年05月20日

初回支払日：2003年06月27日

初回ボーナス月：2003年07月

2回目ボーナス月：12月

ボーナス回数：10回

以上の例では、毎回の返済額は

毎月返済額：25,000円＋毎回の金利

ボーナス加算額：50,000円＋毎回の金利 となります。

ここでの毎回の金利は、前回残高に対する月利計算となります。

例えば、毎月の支払日は27日であれば、

毎月前月の28日から当月27日までの金利として、月利計算していきます。

例： 2回目の金利～前月元金残高 $1,475,000 \times 3\% \div 12 = 3,687$ 円

2回目返済額＝元金分25,000＋金利分3,687＝28,687円となります。

初回のみ、融資実行日との間隔で日割り計算をします。

融資実行日～初回支払日＝39日間（貸付日算入）

$1,500,000 \times 3\% \div 365 \times 39 = 4,808$ 円……これを元金分25,000円に加算しますと

$25,000 + 4,808 = 29,808$ 円～これが初回の返済額となります。

ボーナス払においても同様の考え方となります。

5/28 -----7/27 12/28-----7/27……

[目次へ](#)

7/28-----12/27

| -- 2ヶ月間-- | -- 5ヶ月間-- | -- 7ヶ月間-- | -……

例えば、12/27に支払う2回目のボーナスでは、

7/28～12/27までの5ヶ月分の月利計算金利

$450,000 \times 3\% \div 12 \times 5 = 5,625$ 円……これをボーナス元金分50,000円に

加算しますと $50,000 + 5,625 = 55,625$ 円～これが2回目のボーナス返済額となります。

初回のボーナス分の金利は、融資実行日から初回ボーナスまでの

期間（5/20～7/27＝69日間）を日割り計算した金利を

ボーナス元金分50,000円に加算しますと、

$500,000 \times 3\% \div 365 \times 69 = 2,835$ 円……これを元金分50,000円に加算しますと

$50,000 + 2,835 = 52,835$ 円～これが初回のボーナス返済額となります。

ご注意

当ソフトは上記の計算方法で計算しておりますので、

他の考え方による計算方法の場合は対応できませんのでご注意ください。

金利変動型返済計算 & 繰上返済計算（元利均等払）

2通りの金利で元利均等払の返済計算とその計算されたものに対して、繰上返済計算をすることができます。

金利変動型返済計算

返済期間の範囲で、年単位で金利を変更して
月利計算で返済計算をします。金利変更は一度です。

ボーナス払

ボーナスの間隔は夏冬で、自由に計算できます。

例えば、6月－12月 7月－12月 8月－12月

6月－1月などの間隔での計算が可能です。

金利変更では、ボーナスとボーナスの間に

金利変更があった場合、それぞれの期間の金利で計算されます。

例えば、ボーナスが7月、12月で、新金利適用が10月の場合、

8－9月は旧金利で、10－12月は新金利で計算して、

毎回のボーナス金額を割り出します。

繰上返済計算

月単位で、繰上の計算ができます。

繰上金額から毎月払分とボーナス払分に自動的に適正配分されます。

下記の2通りの計算方法を選択できます。

さらに、その繰上返済による金利軽減メリットや

期間短縮メリットなどを算出して、比較できます。

また、元利展開表が表示・印刷できますので、その詳細がわかります。

繰上金額の適正配分

繰上額を入力エンターすると、その金額を

毎月分とボーナス分に適正に配分して、計算します。

「返済期間短縮」タイプでは、その配分により

ボーナス回数の変化などで金利総額が相当変わってくる

場合もありますので、それらを勘案して金利メリットが

より多くなるような配分をします。

「返済額減額」タイプでは、その繰上する年月で一括清算する場合の金額で按分して配分します。繰上金額を入力すると上記の自動配分しますが、毎月分とボーナス分をそれぞれ個別に自由に入力することもできます。

返済期間短縮

ある月で繰上上乗せ返済をして、その後の返済については、当初設定の毎回の返済額をそのまま継続して展開計算をして、結果的に早く返済が終わる形をとります。

メリットは、全回数がいくら短縮されるか。

残り期間がどのくらい短縮されるか。

金利総額がどのくらい圧縮されるか。等が計算表示されます。

返済額減額

ある月で繰上上乗せ返済をして、返済期間は当初のままで毎回の返済額を計算し直す形で、毎回分が当初よりも少なくなる計算をします。もちろんボーナス払も月利計算で金利変更も含めて正確に元利均等方式で計算します。

メリットは、各期間での返済額減額メリットはいくらか。

金利総額はいくら圧縮されるか。等が計算表示されます。

一括清算金額割出

指定の年月での一括清算の金額も自動割出されます。

借入可能金額（元利均等）割出し

融資での、毎回の返済希望額をリクエストして、その支払方法での最高いくらまで借りられるか借入元本額を割り出すものです。

実質年率計算での元利均等払方法で、毎回の返済希望額から逆算して、借り入れする毎月分とボーナス分の借入元本をそれぞれ算出します。

機能

1. 既定の支払回数の他に回数を自由設定できます。
2. 初回年月とボーナス月を指定して、含まれる最大のボーナス回数を自動で割出して計算します。
3. 割り出す元本は円単位から1万円単位まで指定できます。
4. ファイル保存して、呼びだしてそのまま加工もできます。
5. 一覧表が印刷できます。

入力項目

1. 実質年率

最高は109.2%まで

2. 初回年月

第一回支払の年月を入力します。

入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。

例： 200703 H1903等

3. ボーナス初回年月

第一回のボーナス月を入力します。

ボーナスの有無にかかわらず必須入力です。

入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。

例： 200307 H1507等

4. ボーナス2回目 月

2回目のボーナスの「月」だけを入力します。

(年月ではありません。月だけです。)

例：7 12

5. 毎月支払希望額

毎月の支払額を円単位で入力します。

「金利込みで毎月いくら」の形で入力します。

6. ボーナス加算希望額

ボーナス月にボーナス分として、金利込みで

いくら払いたいかを入力します。

ゼロを入力すると、ボーナスなしの均等払の扱いになります。

7. 支払回数

既定の支払回数が表示されていますが、自由に回数を入力することができます。回数を入力してエンターキーを押して確定して計算されます。

8. 支払回数の設定

現在表示されている回数をそのまま次回起動時にも自動設定することができます。

設定方法：メニューバーの「設定」－「現在表示の支払回数で設定」をクリックするとそのまま設定されて、次回起動時にもこの回数となります。

9. 元金単位の設定

元金を算出する際に、1円、100円、1000円、1万円単位にそれぞれ設定することができます。

設定方法：メニューバーの「設定」－「元金単位」で、それぞれの単位項目をチェックすると、そのまま設定されます。次回起動時にもこの設定となります。

10. ファイル

入力計算した内容をファイル保存、呼び出しができます。

メニューバーの「ファイル」から「ファイルを開く」「名前を付けて保存」でファイル操作します。

呼び出したファイルをそのまま加工して、再度ファイル保存もできます。

拡張子は「*.KK1」です。

11. 印刷

入力計算、あるいはファイル呼びだしした内容を一覧表にて印刷できます。

紙のサイズは「A 4」サイズとなります。

12. コピー

コピーボタンもしくは、表を右ボタンすると「コピー」が出ますので、一覧表の内容をクリップボードコピーできて、Excelなどの他のソフトにも貼付できます。

毎回分の簡単計算（融資/月利計算）

毎回払い分の指定した回での支払額、元本残と金利総額が簡単に計算できます。（毎月払・毎年払・毎日払）
概算計算ではなく、正確な計算ができます。

機 能

- 一般的な毎月払と、年に一回支払の毎年払、毎日支払う毎日払の3種類がオプションボタンで簡単に選べます。
- ▲▼ボタンで前の回、次の回での元本残高が出ます。

[元利均等払い](#)と[元金均等払い](#)の2種類があります。

入力項目

融資金額（総額）：最高5億円まで
支払回数：最高1200回まで
実質年率：最高110%まで

操作要領

- [基本操作要領](#)
- リセットで新規入力

返済額指定計算（融資/月利計算）

元利均等払いのみです。

毎月の支払額が決まっています、途中で金利率が変わった場合など、元利展開をします。

これは、元利均等返済ですが、毎月分やボーナス分を先に指定して最終回で全て調整する計算方法です。

つまり、支払額により支払回数が異なってくるものです。

利用方法としては、融資（変動金利型住宅ローンなど）にて途中で金利が変動になった場合の再計算ができます。

※ボーナス払い分での注意

毎月返済分は問題ないのですが、ボーナス分は前回のボーナス支払月から、これからのボーナス支払月の間に金利が変わるので、前回ボーナス月から借入月までの金利分が計算されません。そこで、その分については手計算にて再計算の初回ボーナス時にその分を上乗せして入力する形をとります。

例えば、旧金利 3.625%、新金利 3.5% で、2007年11月度に新金利で借入計算するとして、前回ボーナス月が2007年6月で支払後ボーナス分元金残が 866,737円だとすると、6月～11月までの5ヶ月間は旧金利ですので、 $866,737 \times 3.625\% \div 12 \times 5 = 13,091$ 円 となって、この 13,091円を初回ボーナス時に上乗せ金利として入力します。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 各項目を入力して、「計算」ボタンを押すと、結果が出ます。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。（拡張子は *.LM4）

入力項目

- 金利年率 : 110%以上の数字は入力不可
- 融資金額（総額） : 最高5億円まで
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- ボーナス初回年月 : 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力（年月ではない）
- 毎月支払額 : これからの毎月支払額
- ボーナス加算額 : これからのボーナス加算額

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)

1 区間の金利を計算します。
日数計算とうるう年での対応もします。
それぞれの期間の日数と金利計算式も表示印刷します。

機 能

- 両端計算です。
- 閏年と平年をまたいだ場合は、自動的に12/31が設定され、
閏年での金利計算は、 $\text{元本} \times \text{年率} \div 366 \times \text{日数}$ で計算します。
- 計算結果と日数の印刷ができます。

入力項目

元 金	: 最高 5 億円まで
実質年率	: 最高 1 1 0 %まで
起算日	: 1 9 5 0 年～2 0 9 9 年
計算日	: 1 9 5 0 年～2 0 9 9 年

操作要領

- [基本操作要領](#)
- リセットで新規入力

日割り元利均等払 計算（融資）

ここでの計算表示はシミュレーションだけではなく、
ユーザーの計算方針と一致すれば、実用の融資計算として対応できるものです。

貸付金額や支払回数等が決まっていたら、この機能で計算します。

特長

1. 毎回の返済額を融資実行日からの日割り計算で、
 - ・ 毎月返済
 - ・ 隔月返済（2ヶ月に一度返済する方式）
 - ・ 3ヶ月毎返済（3ヶ月に一度返済する方式）
 以上の3種類の方式を選択して、正確に割出します。 ※ [返済方法](#) 参照
2. ボーナス払
 - ・ 間隔は6ヶ月間に限らず、夏冬の自由なボーナス月での組み合わせで計算できます。
 - ・ 夏冬のボーナス支払日も別々で設定できます。
 - ・ ボーナスオンリーでの支払計算もできます。
 - ・ 年賦払ができます。
 - ・ 数年後などの据置一回払ができます。
3. 閏年対応計算もできます。
4. 詳細な元利展開表が表示され、そのまま印刷されたものは償還表としても活用できます。
5. ファイル保存できますので、後で呼び出して再加工もできます。計算方法の詳細は下記を参照して下さい。

設定項目

1. 貸付日算入／貸付日非算入 のどちらかを選択設定。
 貸付日算入～金利計算において、貸付日そのものも期間日数に加えて計算します。
 貸付日非算入～貸付日は除き、貸付日の次の日から金利計算の対象期間とするものです。
2. 閏年対応／閏年非対応 のどちらかを選択設定。
 閏年対応～平年の期間は、日数／365、閏年の期間は、日数／366として金利計算します。
 閏年非対応～平年、閏年にかかわらず、一律 日数／365として計算されます。
3. 毎回返済方法の設定
 毎回の返済方法を次の3種類から選択設定します。
 - ・ 毎月返済～通常の毎月返済する方式
 - ・ 隔月返済～2ヶ月に一度ずつ返済する方式 ・
 - 3ヶ月毎返済～3ヶ月に一度ずつ返済する方式

4 . 印刷の表題

目次へ

元利展開表を印刷する際の表題を設定します。

- ・元利展開表
- ・返済予定表
- ・償還予定表

以上のいずれかを選択設定します。

上部のメニューバーの「設定」にて、選択のチェックを入れて保存します。

入力項目

実質年率 ： 1 0 9 . 2 %以上の数字は入力不可

借入金 ： 最高1億円未満まで

支払回数 ： 最高600回まで

融資実行年月日 ： 対象年：1988年～2100年

初回支払年月日 ： 8桁年月日、例えば、20070127と入力
 ここでの日が以降の支払日とします。
 対象年：1988年～2100年

ボーナス回数 ： 支払回数÷6+1まで

ボーナス初回年月日： 毎月返済では、初回年月日より前は不可

ボーナス2回目年月日： ボーナス回数が2回以上の場合は、必ず入力。年賦払の場合は翌年の同じ月日を入力します。

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

1. 各項目へ入力しエンターキーを押すと、確定して次の項目へ進みます。
2. 各項目を入力終了したら、「計算」ボタンで計算され、結果表示されます。
3. 「元利展開表」ボタンで、展開表に画面が変わります。

ここでの印刷は元利展開一覧表が印刷されますので、これがそのまま償還表としても活用できます。

「コピー」ボタンは一覧表をクリップボードコピーできますので、そのまま他のE X C E Lなどの表計算ソフトなどに

貼付することができます。

4. ファイルを保存できます。拡張子は「*.LH9」です。

借入金と内ボーナス分を同額で入力します。

(毎月支払分は無しで、借入金の全部をボーナスで支払うという形にします。)

半年賦 (夏冬の年2回のボーナス払)

1. 支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間 (月数) です。

入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので多めの回数を入力します。

分らなければ300回等の回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。

例：通常ボーナス回数が10回であれば、5年分の月数60回や余裕をもって100回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数 (月数) を割り出します。

2. 初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。
3. ボーナス初回年月日を入力します。
4. ボーナス2回目の年月日を入力します。
5. ボーナス回数を入力します。

年賦 (年1回のボーナス払)

1. 支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間 (月数) です。

入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので多めの回数を入力します。

例：通常ボーナス回数が5回であれば、5年分の月数60回や余裕をもって100回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数 (月数) を割り出します。
分らなければ300回等の回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。

2. 初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。
3. ボーナス初回年月日を入力します。
4. ボーナス2回目の年月日を翌年の同月同日で入力します。
同月でも異なる日であれば、受付しません。
5. ボーナス回数を入力します。

据置一回払

1. 支払回数は、ボーナス回数ではなく、毎月分の回数で、ボーナス最終分の年月までの期間 (月数) です。

入力時では、何ヶ月になるかは不明の場合がありますので、多めの回数を入力します
わからなければ300回などの回数を入力しておけば、自動的に回数は割り出されます。

例：通常ボーナス回数が5回であれば、5年分の月数60回や余裕をもって100回と入力してもかまいません。計算で自動的に回数 (月数) を割り出します。

2. 初回支払日は毎月分の初回という意味となりますので、実行日の翌月の日付を入力します。
3. ボーナス初回年月日を入力します。
4. ボーナス2回目の年月日は、ダミーで入力しても、何も入力せずともかまいません。

■■ 計算方法の詳細

● 日割り計算による元利均等払 計算

元利均等払とは、毎回の返済額が一定額で、その元利内訳が変化していく返済方法。
通常は月利（実質年率／12）計算での毎回返済額の割出しを行います。
ここでは、融資実行日から初回返済日、さらに毎回返済の間の日数が異なる状態で、それらを計算の要素として加味して、元利均等払としての毎回返済額を割出し計算をするものです。
さらに、貸付日算入や閏年対応で計算するかどうかを選択設定ができるものです。

○計算例

例： 融資額：3,000,000円
内訳： 毎月分 : 2,000,000円
ボーナス分 : 1,000,000円
実質年率：3.0%
返済回数：60回払
融資実行日：2007年12月20日
初回支払日：2008年01月27日
初回ボーナス日：2008年07月05日
2回目ボーナス日：2008年12月10日
ボーナス回数：10回
貸付日算入／閏年対応

以上の例での毎月分初回支払分の金利計算は

$2,000,000円 \times 3\% \div 365 \times 12日 = 1,972.60円$ （2007年12月20日～2007年12月31日分）
 $2,000,000円 \times 3\% \div 366 \times 27日 = 4,426.229円$ （2008年01月01日～2008年01月27日分／閏年対応）
金利合計＝1972.60＋4426.229＝6,398円（2008年01月27日毎月分返済時の金利）

ボーナス初回支払分の金利計算は

$1,000,000円 \times 3\% \div 365 \times 12日 = 986.3円$ （2007年12月20日～2007年12月31日分）
 $1,000,000円 \times 3\% \div 366 \times 187日 = 15,327.86円$ （2008年01月01日～2008年07月05日分／閏年対応）
金利合計＝986.3＋15,327.86＝16,314円（2008年07月05日ボーナス加算分返済時の金利）

以上のような形で、毎回返済時の間の日数が異なる状態で、それらを加味して元利均等払になるように毎回返済額を割り出したものです。

これにより、初回が端日数金利が加算されて、初回返済額が多くなるということはありません。
但し、最終回では調整の為、わずかに返済額が異なることになります。

元利展開表												
毎月返済						ボーナス返済					合 計	
回	返済日	日数	金利	元金充当	元金残高	返済日	日数	金利	元金充当	元金残高	返済額	元金残計
1	2008/01/27	39	6,398	29,562	1,970,438					1,000,000	35,960	2,970,438
2	2008/02/27	31	5,006	30,954	1,939,484					1,000,000	35,960	2,939,484
3	2008/03/27	29	4,610	31,350	1,908,134					1,000,000	35,960	2,908,134
4	2008/04/27	31	4,848	31,112	1,877,022					1,000,000	35,960	2,877,022
5	2008/05/27	30	4,615	31,345	1,845,677					1,000,000	35,960	2,845,677
6	2008/06/27	31	4,689	31,271	1,814,406					1,000,000	35,960	2,814,406
7	2008/07/27	30	4,461	31,499	1,782,907	2008/07/05	199	16,314	92,149	907,851	144,423	2,690,758
8	2008/08/27	31	4,530	31,430	1,751,477					907,851	35,960	2,659,328

● 日割り計算による元利均等払 年賦の計算

融資実行日から初回ボーナス返済日までについては、日割りで金利計算し、それ以降は丸1年後であるため、

日割り計算ではなく、年率そのものの金利計算として、元利均等払としての毎回ボーナス返済額を割出し計算をするものです。

さらに、貸付日算入や閏年対応で計算するかどうかを選択設定ができるものです。

○計算例

例： 融資額：1,000,000円

内訳： 毎月分 ： 0円
 ： ボーナス分：1,000,000円

実質年率：3.0%

返済回数：60回払

融資実行日：2007年12月20日

初回支払日：2008年01月27日

初回ボーナス日：2008年12月27日

2回目ボーナス日：2009年12月27日

ボーナス回数：5回

貸付日算入／閏年対応

以上の例でのボーナス分初回支払分の金利計算は

ボーナス初回支払分の金利計算は

$1,000,000円 \times 3\% \div 365 \times 12日 = 986.3円$ （2007年12月20日～2007年12月31日分）

$1,000,000円 \times 3\% \div 366 \times 362日 = 29,672.13円$ （2008年01月01日～2008年12月27日分／閏年対応）

金利合計＝986.3＋29,672.13＝30,658円（2008年12月27日ボーナス加算分返済時の金利）

2回目以降の金利計算では、閏年か平年であるかにかかわらず、1年後の同日である為、元金残高に対して、日割り計算ではなく、年率そのもので計算します。

2 回目の金利計算

1 回目支払後の元金残高 $676,902\text{円} \times 3\% = 20,307\text{円}$

以上のような形で、毎回ボーナス返済時の間隔が丸一年であることを踏まえて、元利均等払になるように毎回ボーナス返済額を割り出したものです。

これにより、初回が端日数金利が加算されて、初回返済額が多くなるということはありません。但し、最終回では調整の為、わずかに返済額が異なることになります。

ご注意

当ソフトは上記の計算方法で計算しておりますので、他の考え方による計算方法の場合は、このソフトでは対応しておりませんのでご注意下さい。

盆暮れ払いや年一回の返済など、ボーナスだけで払う方法を計算します。
元利均等払いのみになります。

入力項目

金 額 ：最高 1 億円まで
実質年率 ：1 1 0 %以上の数字は入力不可
ボーナス回数 ：最高 5 0 回まで
借入年月 ：1 9 5 0 年～2 0 9 9 年
ボーナス初回年月 ：初回年月より前は不可

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- リセットで新規入力

カードのリボルビング計算をします。

リボルビングとは

リボルビングとは直訳的には「回転」の意味になりますが、
毎回同じ支払で回転していく意味になります。
このシステムは、繰り返し融資、あるいはショッピングをしても、
毎月の支払額が一定で安定した支払ができるメリットがあります。
反面、その分支払回数が伸びていくデメリットもありますが、
非常に支払いやすく、現在のカードの支払方法の主流となるものです。

リボルビングの種類

リボルビングといってもいろいろの種類があります。
元本残高に対応して支払額も変化していくものもあれば、
ボーナス加算も金額か倍率か倍額か等、さまざまなケースがありますが、
このソフトでは最も一般的な定額コースでの計算としています。

機能

- 支払回数、最終年月、金利総額が算出されます。
- [元利定額払](#)と[元金定額払](#)の選択ができます。
- 保存・呼出ができます。(拡張子は*.LM5)

入力項目

実質年率 ： 1 0 0 %以上の数字は入力不可
融資金額（総額） ： 最高 5 0 0 0 万円まで
初回支払年月 ： 1 9 5 0 年～ 2 0 9 9 年
月々支払コース ： 1 0 0 円～ 1 0 万円
ボーナス加算コース ： 1 0 0 0 円～ 1 0 0 万円

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- リセットで新規入力

カードリボルビング計算／残高スライド方式（月利計算）

元金残高に対して、毎回支払額が変化する残高スライド方式によるリボルビングカードの主にショッピング等の月利計算による元利展開計算によって、支払回数や金利総額などを割り出す機能です。

残高スライド方式とは

残高が多ければ、支払額も多くなるように、支払額が残高にスライド対応して、合理的な支払方法を実現する方式です。

計算方法

1. 全て月利計算で行います。
融資のように日割り計算は行いませんので、キャッシングやローンカードなどではなく、主にカードショッピング等に適用される計算方法です。
2. 残高締切日の残高に対して、金利計算され、その締切日の翌月の指定日に支払う形での計算となります。

機能と特長

1. [元利定額払](#)、[元金定額払](#)の両方計算可能。
2. ボーナス加算は定額加算と定率加算の両方可能。
3. 繰り返しの利用（買い物・貸付）に対応。
4. 毎月分及び、ボーナス分それぞれに最高10種類の残高対応支払額の設定が可能。
5. 起動時の自動条件設定可能。

各項目内容及び操作要領

注意：入力全体では、入力してから、必ずエンターキーを押して下さい。
ただ入力しただけでは確定しませんので、ご注意下さい。

1. 計算方法

- ・元利定額払 計算例
毎回の支払額は一定であり、その内訳で金利部分と元金充当部分とに分けられます。
- ・元金定額払 計算例
毎回の支払額の内、元金充当部分が一定であり、都度の金利がそれに加算され、それが毎回支払額となりますので、毎回の支払額が変化していきます。

2. 貸付限度額（ご利用限度額と同意味）

クレジットカードの限度額で、この入力金額（万円単位）で、毎回の貸付入力金額などをチェックします。

1万円～500万円の範囲として、これを超過は入力不可。

3. 金利年率

[目次へ](#)

実質年率で入力します。 0～109.2%の範囲として、これを超過は入力不可。

4. ボーナス加算タイプ

- ・ ボーナス加算定額コース

毎月支払コースと同様に残高の範囲によって、ボーナス加算する金額を決めていきます。
ボーナス無しの場合は、1～貸付限度額⇒0 とします。

- ・ ボーナス加算定率コース

毎月支払額の何倍を加算するかをパーセント%で選択します。

例えば、300%であれば、毎月支払額1万円とすれば、300%（3倍）の3万円を加算して、合計その月の支払額は4万円となります。
ボーナス無しの場合は、0%（なし）を選択します。

5. ボーナス加算の月

夏は6・7・8月、冬は12・1月 のいずれかの組み合わせを選択します。

6. 残高締切日／支払日（翌月）

それぞれの選択ボックスより選択します。
この日の残高を当月度最終残高とします。
翌月度の支払日に1ヶ月分の金利計算をします。

例えば、20日が締切日とすれば、前月の21日～当月20日までの
貸付分が当月分としてカウントされます。

初回支払日は翌月となります。

「月末」を選択すると、各月の月末を自動計算して対応計算します。

7. 毎月支払コース

最高10通りまで設定できます。

例えば、残高が1～200,000円の場合は、毎月支払額が5,000円…というように設定入力して行きます。

最終的には、貸付限度額を入力するか、もしくは「*」エンターすると、自動的に貸付限度額が入力されます。

注意：必ず、貸付限度額まで設定して下さい。

8. ボーナス加算コース（ボーナス加算定額コース）

基本的には毎月支払コースと同じ残高パターンがコピー表示されますが、訂正は自由にできます。

最終的には、貸付限度額を入力するか、もしくは「*」エンターすると、自動的に貸付限度額が入力表示されます。

注意：必ず、貸付限度額まで設定して下さい。

ボーナス加算無しの場合は、1～貸付限度額⇒0 と入力します。

9. ボーナス加算コース（ボーナス加算定率コース）

選択ボックスより選択します。

ボーナス無しの場合は、0%（なし） を選択します。

10. 貸付入力（買い物利用）

・貸付年月日

貸付（買い物利用）の年月日を入力します。

入力は必ず、西暦の8桁もしくは、年号の6桁で入力エンターします。

例：2004年1月20日であれば、20040120 もしくは、H160120 と入力エンターすると、
2004/01/20 と確定表示されます。

年月日は順不同でもかまいません。「入力終了」ボタンで自動的に並べ替えをします。

月末の入力

月末は自動チェックが入りますので、その月の月末がわからない場合は、
31日を入力すると、自動的にその月の月末に変換されて入力されます。

例えば、20040231 と入力エンターすると、自動的にチェックされて、
2004/02/29 と入力されます。

・金額

貸付（買い物利用）の金額を円単位で入力エンターします。

貸付入力が終わったら必ず、「入力終了」ボタンをクリックして下さい。

もしくは、貸付年月日に「*」エンターすると入力終了します。

注意：「入力終了」にしなければ、入力した貸付分が確定しませんのでご注意ください。

11. 計算

全て入力したら、「計算」ボタンを押すと、展開計算をして、計算結果が表示されます。

同時に「元利展開表」ボタンが生きますので、元利展開表を見ることができます。

12. 元利展開表

貸付入力された内容を並べ替えをして、元利展開内容が表示されます。

印刷ボタンで、印刷されます。（A 4 サイズの縦印刷）

13. 貸付クリア

貸付クリアボタンでは、リボルビングの条件は現在表示されている条件のままで、

貸付入力部分がクリアされ、新たに別の貸付の入力ができます。

14. 全リセット

リボルビングの条件と貸付内容すべてがクリアされます。

15. 起動時条件の作成

この機能を起動した時に、あらかじめ設定したリボルビングの条件が自動的に設定表示されるようにして、貸付入力のみを入力すれば良い形にするもので、ここではそのリボルビング条件を作ります。
いくつものリボルビング条件を作っておいて、それらの中から選択指定する形となります。

作成要領

リボルビングの条件をそれぞれ入力します。
上部のメニューバーの「設定」－「起動時条件の作成」を指定すると、「現在入力表示されている条件で、起動時の設定条件のひとつを作りますか？」となりますので、「OK」で、名前を付けて保存します。

16. 起動時条件名の設定

前項で作成した条件から、ひとつを選択して、起動時の自動設定条件を指定します。

設定要領

上部のメニューバーの「設定」－「起動時条件名の設定」を指定して、「条件を設定する」ボタンをクリックすると、先に作成した条件名がリストボックスに表示されますので、ひとつ選択してダブルクリックすると設定されます。
次回の起動時には、選択された条件が自動表示されて、そのまま貸付入力を行うことができます。

17. 起動時条件へリセット

ファイルを開いたりして、他の条件での計算結果となっても起動時に自動設定される条件にリセットされて、貸付入力部分もクリアされて、新規に貸付入力できる体制となります。

18. クリップボードコピー

元利展開表や貸付入力の表などでは、マウスの右ボタンでクリップボードコピーを行うことができます。

コピーして、EXCELなどの表計算など、他のアプリケーションにその内容をコピー貼付することができます。

実質年率クレジット計算

車のオートローンなどでの、実質年率で分割計算します。
 実質年率での計算は、融資のような日割り計算ではなく、
 月利計算によって分割計算されます。

金利計算方法

前元金残高に実質年率を掛けて、12で割ったものを
 一ヶ月分の金利として計算します。

毎月支払分の計算

毎月支払分元金＝クレジット所要資金－（ボーナス加算金額×ボーナス回数）として、
 毎月支払分は100円単位になるように、初回支払額で円単位調整して、
 元利均等払（実質年率の月利計算）になるように、計算します。

機能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 手数料は実質年率計算の結果の金利合計で計算されます。
- 月々支払額の単位は100円で初回で1円単位の調整となります。
- ボーナス回数は自動でカウントされます。
- 元利展開表も表示・印刷します。
- 保存・呼出ができます。（拡張子は*.CR2）

入力項目

所要資金 ：最高1億円未満まで
 支払回数 ：1～600回まで
 実質年率 ：最高100%まで
 初回支払年月日 ：1950年～2099年
 ボーナス初回年月：初回年月より前は不可
 ボーナス2回目月 ：月だけ入力（年月ではない）
 ボーナス加算額 ：ボーナス加算金額×ボーナス回数が所要資金の半分以下

操作要領

- [基本操作要領](#)
- リセットで新規入力

アドオン計算／クレジット試算

通常のショッピングクレジットの分割試算をします。

車やパソコンなどをクレジットで購入するときは、殆どこの[アドオン方式](#)での計算方法になります。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- 手数料は実質年率、アドオン率、金額のどれかの入力で計算されます。
また、それぞれ自動換算します。
- 月々支払額の単位は100円と1円の選択ができます。
- 月々希望額を入力するとボーナス加算0目安が出ます。
- ボーナス加算希望額を入力すると月々分目安が出ます。
- 「確定」ボタンで詳細計算をして、元利展開計算まで算出します。
- 分割明細表も表示・印刷します。
- 保存・呼出ができます。(拡張子は*.LM0)

入力項目

- | | |
|----------|-----------------|
| 所要資金 | : 最高1億円まで |
| 支払回数 | : 1～600回まで |
| 実質年率 | : 最高100%まで |
| アドオン率 | : 最高100%まで |
| 手数料額 | : 最高所要資金と同額まで |
| 初回支払年月 | : 1950年～2099年 |
| ボーナス初回年月 | : 初回年月より前は不可 |
| ボーナス2回目月 | : 月だけ入力（年月ではない） |
| ボーナス回数 | : 上記の範囲で入る回数まで |
| 月々希望額 | : 適正金額 |
| ボーナス加算希望 | : 適正金額 |

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [月々支払明細表・印刷](#)
- リセットで新規入力

ショッピングクレジット等のクレジット返済早見表を計算表示及び印刷作成できます。
指定金額（所要資金）ごとに1枚タイプの早見表として表示と印刷ができます。

機能

1. 既定の支払回数の他に回数を自由設定できます。
2. 支払回数と実質年率からアドオン率を自動計算します。
3. 支払回数毎にアドオン率を自由に設定できます。
4. 初回年月とボーナス月を指定して、含まれる最大のボーナス回数を自動で割出して計算します。
5. 計算される毎回の支払額は、毎月分が100円単位、ボーナス分が1000円単位となります。
6. ファイル保存して、呼びだしてそのまま加工もできます。
7. 早見表が印刷できます。

入力項目

1. 実質年率（最高は109.2%まで）
2. 初回年月
第一回支払の年月を入力します。
入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。
例： 200303 H1503等
3. ボーナス初回年月
第一回のボーナス月を入力します。
ボーナスの有無にかかわらず必須入力です。
入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。
例： 200307 H1507等
4. ボーナス2回目 月
2回目のボーナスの「月」だけを入力します。
(年月ではありません。月だけです。)
例：7 12
5. クレジット所要資金
頭金などを差し引いたクレジットにする所要資金の金額を入力します。
7. 支払回数
既定の支払回数が表示されていますが、自由に回数を入力することができます。
回数を入力してエンターキーを押して確定して計算されます。
8. アドオン率
「実質年率計算」ボタンで、実質年率と回数に応じたアドオン率が自動計算表示されます。
アドオン率入力で、回数毎に自由にアドオン率を入力・エンターすると、そのアドオン率での計算がされます。
「アドオン率計算」ボタンを押しても同じとなります

9．支払回数の設定

現在表示されている回数をそのまま次回起動時にも自動設定することができます。 **設定方法：**
メニューバーの「設定」－「現在表示の支払回数で設定」をクリックすると
そのまま設定されて、次回起動時にもこの回数となります。

10．ファイル

入力計算した内容をファイル保存、呼び出しができます。

メニューバーの「ファイル」から「ファイルを開く」「名前を付けて保存」でファイル操作
します。

呼び出したファイルをそのまま加工して、再度ファイル保存もできます。

拡張子は「*.KK1」です。

11．印刷

入力計算、あるいはファイル呼びだしした内容を一覧表にて印刷できます。

紙のサイズは「A 4」サイズとなります。

12．コピー

コピーボタンもしくは、表を右ボタンすると「コピー」が出ますので、

一覧表の内容をクリップボードコピーできて、Excelなどの他のソフトにも貼付できます。

ショッピングクレジットやオートローンなどでの、毎回の返済希望額をリクエストして、その支払方法での最高いくらまで借りられるか借入元本額を割り出すものです。

実質年率体系のアドオン方式計算、あるいは
回数毎のアドオン率設定での毎回の返済希望額から逆算して、
借り入れする借入元本をそれぞれ算出します。

機能

1. 既定の支払回数の他に回数を自由設定できます。
2. 支払回数と実質年率からアドオン率を自動計算します。
3. 支払回数毎にアドオン率を自由に設定できます。
4. 初回年月とボーナス月を指定して、含まれる最大のボーナス回数を自動で割出して計算します。
5. 割り出す元本は円単位から1万円単位まで指定できます。
6. ファイル保存して、呼びだしてそのまま加工もできます。
7. 一覧表が印刷できます。

入力項目

1. 実質年率
最高は109.2%まで
2. 初回年月
第一回支払の年月を入力します。
入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。
例： 200303 H1503等
3. ボーナス初回年月
第一回のボーナス月を入力します。
ボーナスの有無にかかわらず必須入力です。
入力方法は、西暦6桁もしくは年号4桁で入力します。
例： 200307 H1507等
4. ボーナス2回目 月
2回目のボーナスの「月」だけを入力します。
(年月ではありません。月だけです。)
例：7 12
5. 毎月支払希望額
毎月の支払額を円単位で入力します。
「金利込みで毎月いくら」の形で入力します。
6. ボーナス加算希望額
ボーナス月にボーナス分として、金利込みでいくら払いたいかを入力します。
ゼロを入力すると、ボーナスなしの均等払の扱いになります。
7. 支払回数

既定の支払回数が表示されていますが、
自由に回数を入力することができます。
回数を入力してエンターキーを押して確定して計算されます。

8. アドオン率

「実質年率計算」ボタンで、実質年率と回数に応じたアドオン率が自動計算表示されます。

アドオン率入力で、回数毎に自由にアドオン率を入力・エンターすると、そのアドオン率での計算がされます。

「アドオン率計算」ボタンを押しても同じとなります。

9. 支払回数の設定

現在表示されている回数をそのまま次回起動時にも自動設定することができます。

設定方法：メニューバーの「設定」－「現在表示の支払回数で設定」をクリックすると
そのまま設定されて、次回起動時もこの回数となります。

10. 元金単位の設定

元金を算出する際に、1円、100円、1000円、1万円単位にそれぞれ設定することができます。

設定方法：メニューバーの「設定」－「元金単位」で、それぞれの単位項目をチェックすると、
そのまま設定されます。次回起動時もこの設定となります。

11. ファイル

入力計算した内容をファイル保存、呼び出しができます。

メニューバーの「ファイル」から「ファイルを開く」「名前を付けて保存」でファイル操作します。

呼び出したファイルをそのまま加工して、再度ファイル保存もできます。

拡張子は「*.KK1」です。

12. 印刷

入力計算、あるいはファイル呼びだしした内容を一覧表にて印刷できます。

紙のサイズは「A4」サイズとなります。

13. コピー

コピーボタンもしくは、表を右ボタンすると「コピー」が出ますので、

一覧表の内容をクリップボードコピーできて、Excelなどの他のソフトにも貼付できます。

一般的目安として、住宅ローン計算をします。
ボーナス月は、初回から6ヶ月後が初回ボーナス月で
以後、6ヶ月間隔でのボーナス月として計算します。

機 能

- 金利合計額も算出されます。
- ゆとり返済も計算できます。
- 各項目を入力して、「計算」ボタンで詳細計算されます。
- 変更したい項目のみを入力して、「計算」ボタンで繰り返し詳細計算ができます。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。

入力項目

返済年数 ：最高60年まで
毎月支払分元金 ：最高1億円まで
ボーナス返済分元金：最高1億円まで
当初10年間年率 ：最高20%
11年目以降年率 ：最高20%

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- リセットで新規入力

実際の借入年月や初回年月・ボーナス年月などを入力の上、
正確に金利計算、及び最終年月までも計算します。

機 能

- 最終年月・金利合計額も算出されます。
- ボーナス回数は自動カウントします。
- ゆとり返済も計算できます。
- 各項目を入力して、「計算」ボタンで詳細計算されます。
- 変更したい項目のみを入力して、「計算」ボタンで繰り返し詳細計算ができます。
- つどの変更計算のシミュレーションを一枚の紙に5通りまで印刷できます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。(拡張子は*.LM6)

入力項目

- 返済年数 : 最高60年まで
- 毎月支払分元金 : 最高1億円まで
- ボーナス返済分元金 : 最高1億円まで
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- ボーナス初回年月 : 初回年月より前は不可
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力(年月ではない)
- 当初10年間年率 : 最高20%
- 11年目以降年率 : 最高20%

操作要領

- [基本操作領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

現在の住宅ローンの元金残高を入力して、新たに借り入れるローンを計算・比較して、そのメリットをシミュレーションします。
当初の住宅ローンの借入内容が不明で、現在の残債がわかっている場合にこのソフトを使います。

入力項目

現在借入元金残高：

毎月支払分元金　：最高 1 億円まで、1 円単位

（内ボーナス分）　：最高 1 億円まで、1 円単位

金利年率　　　　　：最高 4 0 %

残存期間　　　　　：現在のローンの支払残存期間

---- 以上を入力の上、「借入金額を割出し」ボタンで

「借換の内容」が割り出されて入力されますので、

変更あれば入力し、「金利年率」に借り換える場合の

年率を入力して「計算」ボタンを押すと、結果が表示されます。-----

借換によるメリットは現在のローンをそのまま続けた場合の
「現在の借入」と借り換えた場合の差額を表示しています。

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)

現在の住宅ローンの当初の借入から計算して、借換の時点での元金残高を割出して、その金額を新たに借換するとして割出し、ローンを計算・比較して、そのメリットをシミュレーションします。

最初の住宅ローンの借入内容がわかっていて、現在の元金残高が不明の場合にこのソフトを使います。

入力項目

当初の借入額 ：最高1億円まで、万円単位
（内ボーナス分） ：最高5千万円まで、万円単位
返済期間 ：最高35年
金利年率 ：最高40%
残存期間 ：現在のローンの支払残存期間

---- 以上を入力の上、「借入金額を割出」ボタンで
「借換の条件」が割り出されて入力されますので、
変更あれば入力し、「内ボーナス分」や「金利年率」に
借り換える場合の年率を入力して「計算」ボタンを押すと、
結果が表示されます。-----

借換によるメリットは現在のローンをそのまま続けた場合の
「現在の借入」と借り換えた場合の差額を表示しています。

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [概算連続印刷](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)

ショッピングクレジットなどで一般的な7 8 分法での手数料戻し計算をします。

ショッピングクレジットを組んで、途中で一括清算などをすると、
未経過分手数料を戻す場合に、この計算方法を用いることが多く、
これで算出された金額を残金額から差し引いて支払い、一括清算とするものです。

注意：この計算は金利戻し計算としてみることも多く、
クレジット会社によっては、算出された戻し手数料の中から
若干の金額を取扱手数料などとして差し引く場合があります。

機 能

- 戻し手数料金額と、その計算式も表示します。
- 通常は翌月からの支払ですが、据置払の場合でも計算します。
- 各項目を入力して、「計算」ボタンで詳細計算されます。
- 計算式も含めて印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。(拡張子は*.LM7)

入力項目

手数料 ：最高1 0 0 0 万円まで
支払回数 ：最高6 0 0 回まで
売上年月 ：1 9 5 0 年～2 0 9 9 年
支払開始年月：1 9 5 0 年～2 0 9 9 年
一括清算年月：1 9 5 0 年～2 0 9 9 年

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

[アドオン率](#)から回数に対応した[実質年率](#)を求めます。

計算方法は数学的に絞り込み計算にて算出します。

実質月利も算出します。

繰り返し計算できます。

基本的には、[アドオン率](#)→[実質年率](#)の変換と同じです。

但し、元金と手数料からそのまま実質年率を求める形となっています。

ここで、求められる実質年率は、ボーナス払い等は一切考慮しないもので、完全な均等払いとしてのものを算出します。

●通常分割払い

ショッピングクレジットなどでの計算による分割払手数料の実質年率を求めます。

機 能

- 通常分割・均等払い・据置払い・ボーナス併用払などの手数料を実質年率に換算します。
- 実質月利も算出します。
- 変更したい項目のみを入力して、「計算」ボタンで繰り返し詳細計算ができます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。(拡張子は*.LM8)

入力項目

- 元 金 : 最高5億円まで
- 金利額 : 最高5千万円まで
- 支払回数 : 最高1000回まで
- 借入年月 : 1950年～2099年
- 初回支払年月 : 1950年～2099年
- 初回支払額 : 分割支払初回分
- 2回目以降支払額 : 毎月分割支払額
- ボーナス加算額 : 毎月に加算するボーナス額
- ボーナス回数 : 年月と回数で自動チェック
- ボーナス初回年月 : 初回支払年月以降
- ボーナス2回目月 : 月だけ入力

年賦・半年賦の実質年率を求める方法

(月々の支払はなく、ボーナスオンリーで払う)

支払回数：最終ボーナス払分までの回数は自動計算されますので、
多めの任意の回数を入力します。

例：2000年1月借入で12月だけの3回払であれば、
支払回数は35回になるが、余裕で60回とか100回で入力してもよい。

初回支払年月：借入年月の翌月とします。

例：借入年月：200701 とすると 初回支払年月は 200702 とします。

初回支払額と2回目以降支払額：ゼロとします。

操作要領

- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力
- 注意 据置月がある場合は正確に計算できない場合があります。

●不均等分割払い

ショッピングクレジットなどで、毎月バラバラな支払の
分割払手数料の実質年率を求めます。

機能

- 不均等払い・均等払い・据置払い・ボーナス併用払等のどんな支払方法でも実質年率を算出します。
- 実質月利も算出します。
- 変更したい項目のみを入力して、「計算」ボタンで繰り返し詳細計算ができます。
- 元利展開表の表示、及びその印刷ができます。
- 保存・呼出ができます。（拡張子は*.LM9）

入力項目

元 金 ：最高1億円まで
金利額 ：最高1億円まで
支払回数 ：最高300回まで
借入年月 ：1950年～2099年
初回支払年月 ：1950年～2099年
月々支払額 ：入力してエンターで確定して次の欄に進みます。

操作要領

- ※ 「=」エンターで前月と同金額がコピーされます。
- ※ 「/」エンターで残金を残回数で自動計算します。
- [基本操作要領](#)
- [元利展開表表示・印刷](#)
- [ファイルの保存と読込](#)
- リセットで新規入力

[実質年率](#)から回数に対応した[アドオン率](#)を求めます。

繰り返し計算できます。

[実質年率](#)から回数に対応した[アドオン率](#)を求めます。

一般的な支払回数で一覧表としています。

機 能

- 繰り返し計算できます。
- 一枚の紙に最大9種類までの換算表を印刷できます。
印刷の貼付で、画面に印刷イメージが表示されます。

タイトルのアイコンボタンで操作します。

[実質年率](#)のリクエストにより、毎回のローン返済額を電卓ですぐ計算できる指数表を出力します。

その支払率を元金に掛けるだけで、毎回の返済額が割り出せます。

ボーナス月返済分は、借入した月から数えて、最初のボーナス月が何ヶ月目に当たるのかをみて、1ヶ月～6ヶ月の範囲で指数が表示されますので、その指数をボーナス分の当初元金に掛ければ、ボーナス分の返済額が算出できます。この表でのボーナスとボーナスの間隔は、は6ヶ月間隔として計算していますので、それ以外の計算は、当ソフトで詳細計算をして下さい。

この指数表では、小数点以下6桁までの計算になっていますので、1000万円以上の金額での計算では、円単位で若干の誤差が出る可能性がありますので、その際は当ソフトでの計算をおすすめします。

注意

この早見表での計算は、あくまで目安としてご覧下さい。
実際の実質年率計算では、最終回で調整して計算されますが、この機能では、それを考慮しておりませんのでご注意下さい。

計算方法

毎月返済元金及びボーナス月（加算）返済元金にそれぞれ該当する支払率を乗じて返済額を計算します。

（円未満は切り捨てもしくは四捨五入します。）

- ・ 毎月返済元金×毎月返済の支払率＝毎月の返済額
- ・ ボーナス月（加算）返済元金×ボーナス月（加算）返済の支払率＝ボーナス月（加算）の返済額

計算例

- ・ 支払回数＝120回（10年） ・ 実質年率＝2.50% ・ 借入年月＝2004年05月
- ・ ボーナス月＝7月と1月

毎月返済元金 : 300万円----> $3,000,000 \times 0.942698\%$ = 28,280円

ボーナス分元金 : 200万円----> $2,000,000 \times 5.635263\%$ = 112,705円

支払合計（概算）: $28,280 \times 120回 + 112,705 \times 20回$ = 5,647,700円

金利合計（概算）: $5,647,700円 - 元金5,000,000円$ = 647,700円

タイトルのアイコンボタンで操作します。

1. 定型タイプ

実質年率からアドオン率へ各回数ごとに、0.25%もしくは0.5%きざみで表示されています。
回数は、1～60回と、6～84回のタイプを選択します。
A4縦印刷です。

2. リクエストタイプ

何%から何%きざみで計算するかをリクエストできます。
実質年率は21種類
回数は6～180回までの33種類
A4横印刷です。

実質年率「何%」体系のアドオン率といわれるものはほとんどこの換算で計算します。

元金にこのアドオン率を掛けると、手数料が算出できます。

但し、この変換は完全な均等払いとしての変換計算のみで、
ボーナス払等での変換ではありません。

MDタイマーとは

MD=Mr. Dragon の作成したタイマーソフトです。
いろいろのニーズに対応した、多機能タイマーソフトです。

●機能一覧

1. お知らせアラーム-----時間指定で様々な音でのアラームでお知らせします。
2. カウントダウン -----時間を指定して、カウントダウンします。
3. ストップウォッチ -----普通のストップウォッチです。
4. 時間経過計算 -----経過した時間を計算し、累計加算計算もします。

MD電卓

この電卓は、普通の電卓を独立したソフトとして付属させた
ものですので、MD電卓のみをショートカット作成して
デスクトップなどに貼り付ける便利に使えます。

MD電卓

普通の電卓です。

数字キーからの入力が素早くできます。

上部のボタンから次の「日数計算」と「関数・数式電卓」を呼出できます。

大きい電卓： ▲ ボタンで大きい電卓になり、見やすく操作しやすくなります。

日数計算

起算日と計算日の入力で日数を計算します。

年号表示・十二支・曜日・満年齢なども計算表示されます。

また、「この日から何日後は何年何月何日か」を計算する経過日数計算もできます。

入力には西暦・年号（H）のどちらでも可能です。

おもしろい例：自分が生まれた日は何曜日かわかります。

自分が生まれてから何日経っているかわかります。等々・・・

関数・数式計算

関数電卓として使用できます。

数式電卓として、あるいは変数入力計算もできます。

例えば、 $A = 56 * 5 / (D + 8^{(-2)})$ $D = 123 / \text{Sqr}(8)$

などという複雑な変数での計算式で入力・計算を行います。

[関数](#)や[演算子](#)記号と変数を混合して使用できます。

変数はA～Zまで使用でき、変数の中にさらに変数を設定できます。

さらに、変数や計算式を保存・読込もできるものです。

サポートは下記メールでのみ行います。

Mr. Dragon

monsh@msi.biglobe.ne.jp

サポートは作者の可能な範囲でのサポートとなります。
このソフトについての問題解決を保証するものではありません。

■■ 登録料のお支払い

このソフトはシェアウェアです。

試用期間は30日間です。

継続ご使用は、次の2通りの方法で登録料をお支払いの上、
通知されたパスワード（解除キー）を入力すると、以後継続使用できます。

登録料は1件 1,620円（税込）です。

（1台のコンピュータで1件の登録料となります）

次の2通りのいずれかでお支払い下さい。

● 登録料支払方法

1. クレジットカード決済

ベクター社のシェアレジにてクレジットカード決済頂きますと、
ベクター社よりパスワード（解除キー or ライセンスキー）が即座に通知されます。

2. 銀行振込

ソフトのタイトル画面の下にある「登録要領」ボタンをクリックして
、登録要領に記載してある銀行口座へ振り込みの上、
下記のメールアドレスへ

- ・振り込んだ旨と、
- ・ソフト名 「ALLローンマスター」
- ・あなたの名前とメールアドレスを

Eメールして下さい。

確認の上、すぐにパスワードを通知致します。

メールアドレス： monsh@msi.biglobe.ne.jp

■■ パスワード登録

通知されたパスワード（解除キーもしくははライセンスキー）は、タイトル画面の
「パスワード」ボタンを押すと
パスワードダイアログが出ますので、
パスワードを入力して「OK」ボタンを押すと 制限解除され、以後継続
使用できるようになります。

※パスワードは半角の大文字で入力して下さい。

注意

このソフトは、一般的な方法での計算としています。
金融機関や会社、あるいは地域等によって計算方法や考え方が異なる場合もあります。
また、計算内容によっては誤差が生じる場合もありますので、このソフトの計算結果はあくまで目安としてご利用頂くか、もしくは、よくご検証してご納得の上でご使用下さい。

**尚、このソフトによって生じた問題について、
作者は一切責任を負いません。**

アドオン方式

回数ごとに決まった「率」を掛けて手数料を算出して、その手数料を元金に上乗せしてその分割払合計金額を回数で割って、月々の支払額を算出する分割方法。

例えば、

元 金 ： 30万円
支払回数 ： 36回払い
アドオン手数料率： 20.43% の場合、

手数料 $300,000 \times 20.43\% = 61,290$

分割払合計 $300,000 + 61,290 = 361,290$

月々支払額 $361,290 \div 36 = 10,035$

100円単位で 月々10,000円 初回 11,290円

以上のように電卓で簡単に月々の計算ができる
ものです。

単純に、元金にこのアドオン率を掛けて金利・手数料を算出します。

アドオン率から実質年率を求める為には、高等数学などで絞り込み計算をします。

この実質年率で金利計算するためには、支払回数分元利展開計算をして、最終的に毎月の金利を集計してはじめて金利総額が計算されます。
そして、この金利総額が元金に対して何%なのかを計算したのがアドオン率となります。

コピー

元利展開表の内容をクリップボードにコピーできます。

方法

1. 元利展開表のコピーしたい部分をドラッグして範囲を指定します。または、表の「回数」の項目欄をクリックすると、元利展開表の内容全部が範囲指定されます。
2. 「コピー」ボタンを押すか、もしくはマウス右ボタンを押して、クリップボードへコピーします。
3. 表計算ソフトやワープロソフトのワークシートに貼り付けします。

ゆとり返済

公的住宅ローンの返済方法において、当初5年間の返済額を極力少なくして、6年目以降で返済額を多くして返済する方法です。

毎年給与などが上がっていくことを前提として、最初は楽に支払い、後で給与がだいぶ上がったところで支払いを増やしていく形で、初め楽して後で苦勞する支払いかたです。

最近は給与が上がらないこともあって、非常に問題となっています。

演算子

MD 電卓の「数式 / 関数」で使う演算子です。

記号	内容
----	----

+	加算
-	引き算
*	かけ算
/	わり算
^	べき乗 例：5 の 2 乗 = $5^2=25$
()	カッコ

関数

MD電卓の「数式 / 関数」で使う関数です

次の11種類の関数が使えます。

関数	内容	使用方法

Abs	絶対値	Atn(63-89)=26
Atn	逆正接	Atn(数式)
Cos	余弦	Cos(数式)
Exp	定数eのべき乗	Exp(数式)
Fix	整数部	Fix(数式)
Int	整数値	Int(数式)
Log	対数	Log(数式)
Sin	正弦	Sin(数式)
Sqr	平方根	Sqr(数式)
Tan	正接	Tan(数式)
Pi	π	Pi

毎回の元金返済部分が同じ形の返済方式です。
しかし、その金利部分は毎回変わってくるものです。

例えば、元金 30,000円
金利 600円（年利12%）
回数 3回払い
月々元金10,000円×3回

とした場合、元利内訳は次のようになります。

回	支払額	金利	元金充当	元金残高
				30,000
1	10,300	300	10,000	20,000
2	10,200	200	10,000	10,000
3	10,100	100	10,000	0

合計	30,600	600	30,000	

毎回の元金充当部分が均等で、かかる金利が
毎回元金残高に応じて変わってきます。

元金定額払

カードのリボルビング払いでの支払方法のひとつ。

月々の支払いの外に金利が加算されるものです。

「外掛け」という言い方もあります。

例えば、10万円の借入で、毎月一万円コースの支払、
年率12%とすると、

回	毎月支払	金利	元本充当	元本残高
				100,000
1	11,000	1,000	10,000	90,000
2	10,900	900	10,000	80,000
3	10,800	800	10,000	70,000
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

以上のように、元本充当分は一定で、それに
金利が加算される支払方法です。

毎回の返済額は同じでも、その元金部分と金利部分の内訳は変わってくるものです。

例えば、元金 30,000円
 金利 600円（年利11.97%）
 回数 3回払い
 月々 10,200円×3回

とした場合、元利内訳は次のようになります。

回	支払額	金利	元金充当	元金残高
				30,000
1	10,200	299	9,901	20,099
2	10,200	200	10,000	10,099
3	10,200	101	10,099	0

合計	30,600	600	30,000	

これは、毎回分をみると、元金充当部分と金利部分を足しての支払額（元利計が）=10,200 が均等であるということです。

カードのリボルビング払いでの支払方法のひとつ。
月々の支払いの中に金利も含んでの形になるものです。
「内掛け」という言い方もあります。

例えば、10万円の借入で、毎月一万円コースの支払、
年率12%とすると、

回	毎月支払	金利	元本充当	元本残高
				100,000
1	10,000	1,000	9,000	91,000
2	10,000	910	9,090	81,910
3	10,000	819	9,181	72,729
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

以上のように、金利と元本充当分を合わせて、
つまり、元利合わせて月々1万円となる支払方法です。

金利は本来、前元本残に対してかかるものです。
この実質年率を12分したものが実質の月利で、毎月返済の場合、前月の元本残高に対してこの月利を掛けて金利が計算されます。
つまり、金利計算の基本となる率のことです。

この実質年率で金利計算するためには、支払回数分元利展開計算をして、最終的に毎月の金利を集計してはじめて金利総額が計算されます。
そして、この金利総額が元金に対して何%なのかを計算したのがアドオン率となります。

● 貸付元金

[目次へ](#)

貸付元金は、毎月払分元金とボーナス払分元金に分けて入力します。

毎月払とボーナス払では、それぞれの貸付元金に対して金利と毎回支払額の計算方法が違いますので、分けて入力するのです。

例えば、100万円を年6%で借りるとして、
60万円を毎月払分元金として
40万円をボーナス払分元金として貸付した場合、
毎月支払う金額 11,599円（金利込み）
ボーナス月に支払う金額 46,089円（金利込み）と
すると、ボーナス月には毎月分とボーナス分の合計
の 57,688円を支払う形となります。

年賦

年に一度だけの支払いで、その他の月は支払いがない。
ボーナスオンリーで払う。

月々の支払いがなく、夏冬のボーナス月のみで
支払いをする。ボーナスオンリー払い。

融資の毎回の返済方式において、次の3種類の方式を表示します。
 融資の「日割り計算での元利均等払」において、計算可能となります。

● 毎月返済

通常一般の返済方法で、毎月返済する方法。

計算例：

回	返済日	日数	金利	元金充当	元金残高	返済額
1	2008/01/27	39	6,410	29,553	1,970,447	35,963
2	2008/02/27	31	5,020	30,943	1,939,504	35,963
3	2008/03/27	29	4,622	31,341	1,908,163	35,963
4	2008/04/27	31	4,861	31,102	1,877,061	35,963
5	2008/05/27	30	4,628	31,335	1,845,726	35,963
6	2008/06/27	31	4,702	31,261	1,814,465	35,963



● 隔月返済

融資の返済方法のひとつで、毎月返済するのではなく、隔月（2ヶ月毎）で返済していく方式。
 年金受給者などが支払いやすい方法。

計算例：

回	返済日	日数	金利	元金充当	元金残高	返済額
1	2008/02/27	70	22,961	189,759	810,241	212,720
2	2008/03/27				810,241	0
3	2008/04/27	60	15,939	196,781	613,460	212,720
4	2008/05/27				613,460	0
5	2008/06/27	61	12,269	200,451	413,009	212,720
6	2008/07/27				413,009	0
7	2008/08/27	61	8,260	204,460	208,549	212,720
8	2008/09/27				208,549	0
9	2008/10/27	61	4,170	208,549	0	212,719
合 計:			63,599	1,000,000		1,063,599

● 3ヶ月毎返済

融資返済方法のひとつで、毎月返済するのではなく、3ヶ月に一度ずつ返済していく方式。

計算例：

回	返済日	日数	金利	元金充当	元金残高	返済額
1	2008/02/27	70	22,961	193,861	806,139	216,822
2	2008/03/27				806,139	0
3	2008/04/27				806,139	0
4	2008/05/27	90	23,787	193,035	613,104	216,822
5	2008/06/27				613,104	0
6	2008/07/27				613,104	0
7	2008/08/27	92	18,493	198,329	414,775	216,822
8	2008/09/27				414,775	0
9	2008/10/27				414,775	0
10	2008/11/27	92	12,511	204,311	210,464	216,822
11	2008/12/27				210,464	0
12	2009/01/27				210,464	0
13	2009/02/27	92	6,359	210,464	0	216,823
合 計:			84,111	1,000,000		1,084,111

両端計算

[目次へ](#)

「リョウバ計算」と呼びます。

「貸付日算入」と同じ意味になります。

融資の場合、法的には貸し付けたその日の金利も計算して
良いことになっています。

反対語：「片端計算」

貸し付けた日の金利は計算しません。